

絵本 Vol.6 いいね!

今回の「いいね!な絵本」は

『なが〜くのびるしかけえほん とんでった』

たかいよしかず 作・絵
KADOKAWA

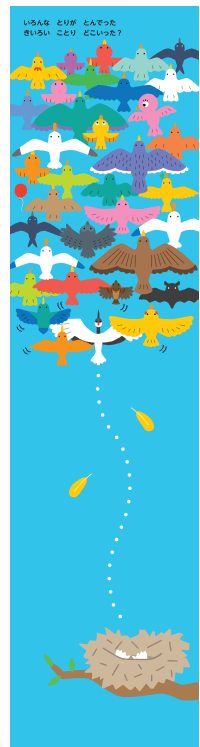


今回のいいね!な絵本は、KADOKAWAの『なが〜くのびるしかけえほん とんでった』をご紹介します。この作品は、ページが長く伸びる『speak(スプレック) type2』という様式で作られた新感覚の仕掛け絵本で、横ではなく上に開いて読んでいく、とてもユニークな絵本です。この本の作者たかいよしかずさんと編集担当の角田(つのだ)さん、speakを提案した図書印刷の小須田(こすだ)さんに、本作品の魅力とこだわりを語っていただきました。

たかいよしかずさん

お店屋さんが置いてくれるものを作らなあかん

人を喜ばせることや笑わせることが大好きなたかいよしかずさんが、どのようにして『なが〜くのびるしかけえほん とんでった』を生み出したのか。たかいさん自身のことも含め、たっぷり魅力を伺いました。



絵本作家になろうと思ったきっかけを教えてください。

小学生のときに壁新聞に描いた僕の漫画を、友達が見て笑ってくれたんですよ。それを見て、僕がやったことで人が喜んでくれるのが、自分にとって嬉しいことやなって。それからずっと人を喜ばせることが好きだったんですけど、大学生のときに教育実習を経験して、子どもたちに何かを伝えていきたいということ、将来僕は絵本作家になって、自分の気持ちを絵本にして伝えたいってすっごく思ったんです。

絵本作家としてのこだわりがあれば教えてください。

実は僕、半年間だけお土産物の会社に勤めてたんですよ。一応、企画担当ということで入社したんですけど、ほとんど営業の仕事で。売り歩いても中々買ってもらえないんですよ。そのときに、営業の人がごんだけ大変な思いをしてモノを売ってるかということが体に染みついてたし、もし僕が企画とかデザインをできる立場になったら、お店の人から「おたくのあの商品をうちの店でも売りたい」と言ってもらえるような商品を作れるような人になりたいって思ってた。その気持ちは今でも変わらへんし、絵本作ってても一緒なんですよ。

やっぱりお店屋さんが置いてくれるものを作らなあかんってすっごく思ってます。

本作品を作るようになったきっかけを教えてください。

意外なお子さんが隠されてる、ページが広がる仕掛け絵本を作りたかったんですよ。それで手作りの試作品を作って編集の角田さんに提案したら、図書(印刷)さんの『speak』を教えてくださいました。2回も広がるのでもって面白いものが作れるかもしれないって。

最初の試作品は横開きの形ですが、どのようにして上開きになったんですか？



「もしかしたらこのしかけで日本初の絵本になるかも」って思ってた。早く作ろう！ってなりまして。「何が上に上がっていくの?」って考えて、とにかく飛ぶものをブワーって書いていって。風船とか、飛行機とか、飛ぶものを書き出して、何が作れるかなって。2回開きは大変でした。やり始めたらやっぱり思ってた(笑)。

そうして完成した本作品ですが、今後作りたい作品はありますか？

子どもに関する悲しい事件とかを聞くと、「どういふ本に出会えたら、幸せになれる子どもが増えるのかな」って考えます。それと、すごく単純だけどハッとさせられるような、そんな絵本をこれから作ってみたいです。

最後に読者の方へメッセージをお願いします。

これからも楽しい絵本をいっぱい作りますので、応援よろしくお願いします。

たかいさん、ありがとうございました。



いいね!な絵本を作った人

たかいよしかずさん

大阪府堺市生まれ。魚座。大阪芸術大学デザイン学科卒業。(株)京田クリエーション社長。明治「マーブルチョコレート」キャラクターの「マーブルわんちゃん」、公文式「Baby Kumon(ベビークモン)」キャラクターの「くろくまくん」など、多くのキャラクターデザインを手がけるとともに、イラストレーターとしても活躍。主な作品に、「怪談レストラン」シリーズ(童心社)の装丁・挿し絵、「おはなし・くろくま」シリーズ(くもん出版)など。





本当に子どもが 楽しんでくれるかどうかを一番に

つのだ のぞみ
角田望さん

絵本編集者



たかいさんは、子どもに寄り添った絵を描かれる方。
今回の絵本は、本当に子どもが楽しんでくれるかどうかを一番に考えました。
制作中、何度も子どもたちに読んでもらっては、その反応を見てネタをしぼっていました。
できあがった絵本を見て、子どもたちはしかけをぐるぐる開きながら、
嬉しそうに指さして「〇〇がいる!」と教えてくれます。

いいね! な絵本

角田望さん

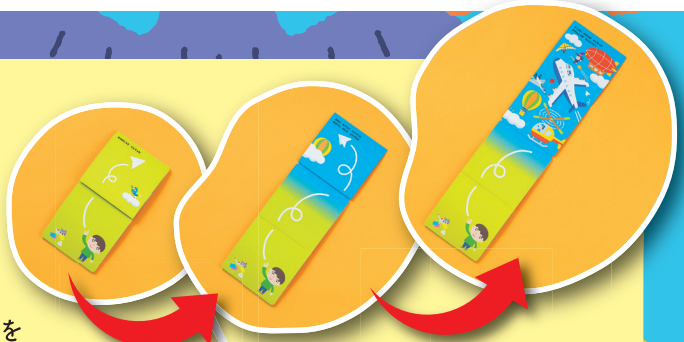


KADOKAWA編集。
担当した絵本は「Sassy
のちいこえほん」シリーズ
(Sassy/DADWAY、
LaZOO)、『星のひとみ』
(せなけいこ、石井睦美)
など

『spreak』とは



spreakは、spread (広がる)とbook (本)からの造語で、
紙面をより広く使えるように工夫した合紙絵本の製本様式です。
本文見開きのページがさらに開き、ページの面積が倍に広がります。
『なが〜くのびるしかけえほん とんでった』では、この【広がる】要素を
活かして、ページを伸ばすことで楽しめる内容になっています。
このspreakにはページが長く伸びるタイプの他に、大きく広がるタイプもあります。



印刷営業



一点物をお客様と一緒に作っていく役割

こすだ やすし
小須田康さん

今回の絵本を作る
なかで、大変だったことや
工夫したことを
教えてください。
ページを折り返したとき
に表と裏の色が一致するかと
特殊な仕様なので、他の造本
と差別化できることが良いです
ね。面白いギミックを比較的
コストで大量に生産できる部分
も魅力と考えています。後はど
んどん開いていくインパクトと、
アイデア次第で面白くなる点
ですね。今回の上に開くパターン
は「なるほど!」と思いました。

今回小須田さんが提案した
『spreak』の魅力を
教えてください。
基本的にはお客様
の希望がおりるもの
を作るのが職務ですけ
ど、こちらもプロなので、
さらに読者にとっても良
くなるような提案をプラ
スアルファで持ち込んだり
しています。それが次の仕事
に繋がると思っています。



印刷会社の営業とは
どのような職務ですか?
自分は出版社の営業担当なので、本のイメージに合わせた
造本提案をしたり、印刷のため
の様々な手配をするのが仕事
です。本の個性を表現できる
作品をお客様と一緒に作って
いく役割だと思っています。

いいね! な絵本

小須田康さん

【プロフィール】
2003年図書印刷入社。
入社時より大手出版社の営業担当
として、現在に至る。絵本だけでなく
コミックや画集、書籍など様々な印
刷物の仕様提案・製造管理を行う。

小須田さん、
ありがとうございました。

ものづくりについての
想いやこだわりを
教えてください。
基本的にはお客様
の希望がおりるもの
を作るのが職務ですけ
ど、こちらもプロなので、
さらに読者にとっても良
くなるような提案をプラ
スアルファで持ち込んだり
しています。それが次の仕事
に繋がると思っています。

うかなどは注意しました。大
量生産をするの
は初めての事
例だったので、
完成するまで
は緊張しまし
たね。試行錯誤しなが
ら工夫して色んな方の力を借
りて、上手くなりました。



いいね! な絵本



『なが〜くのびるしかけえほん
とんでった』のお求めはお近くの
書店等にお問い合わせください。

